

令和5年度版『ひろがる言葉 小学国語 二上』年間指導計画・評価計画

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。
△知識・技能 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと ☆他教科との関連

〔第1学年及び第2学年〕目標（「学びに向かう力，人間性等」の単元目標）

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書を、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

[illegible]

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
4	3 (話す聞 く3)	声の ものさしを つかおう	◇いろいろな場面で、話す声の大きさを考えて、気をつけて話すことの大切さに気づく。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	1	○いろいろな場面に合わせた声の大きさと話すことを理解し、学習のねらいと流れをつかむ。 1. 挿絵と照らし合わせながら教材文を読み、学習の大体をつかむ。 2. P14の「みんなにしらせるとき」「ほけんしつで」「うんどうかいで」の場面について、それぞれ、P15の「声のものさし」のどこにあたるか考え、実際に話しながら、「ものさし」の数値と実際の声の大きさを実感的に捉える。	○場面や相手の数に合わせた声の大きさと話すことの必要性に気づかせ、上手にたくさん話をしていくよう意識づける。日常生活の場も意識させる。 ○全文を挿絵と照応させながら読み、日常生活で意識しているか経験等を想起させ、「ものさし」を学習し直す意欲をもたせる。 ○学校生活の中の「みんなにしらせるとき」「ほけんしつ」「うんどうかい」の経験を思い起こさせ、そのときの声の大きさに背景や理由があることを考えさせるようにする。 ○相手の人数に合わせた大きさと話すときの声について、話すグループと観察するグループに分けて、話し手どうしの感覚や、聞いた時の感覚を実感的に比べさせるとよい。 ○五段階の声の大きさ（「0」を含む）のうち、「0」の声は、例えば教室移動のとき、「4」の声は、体育館などで音読したり発表したりするときなど、空間の広さや周りの状況でも変わること、変えることを意識させ、P8-10の詩の音読を、いろいろな声で楽しませたい。 ○生活場面でのいろいろな機会を、P15をもとに考えさせる。理由を添えて考えが話せるようにしたい。	◎【知識・技能】音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ） 【態度】積極的に声の大きさや速さなどを工夫し、学習の見通しをもって話そうとしている。		漢字／様子／文
				2	3. 「声のものさし」に合わせて声を出す。 ・「ものさし」の「0の声」「4の声」を教室や校庭で実際に試したり、『ちいさい おおきい』をいろいろな「ものさし」で読んだりして、実感的に確かめる。 4. P15の場面の声の大きさやその理由を話し合い、生活のほかの場面を想定し合って、「声のものさし」をいつも心の中にもっているよう意識する。				
				3	5. P16「書くとおなじでも、よむとちがうことば」を読み、アクセントの違う言葉を集め、文を作って比べ合う。 ○学習を振り返る。	○同音の言葉でも、意味の違いでアクセントが異なる言葉があることに気づかせ、たくさん集めたり、文にして比べ合ったりさせる。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
4～5	13 (話す聞く3)	一 とうじょう人物のし た ことに 気を つけて 読もう	□登場人物の様子を思い浮かべながら読み、くまの子になったつもりで音読する。						
		「えいっ」	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：B感謝 家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。	1・2 3～5 6～10 11 12・13	○単元とびらを読んで学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. くまのとうさんが「えいっ。」と言ったあとに起こることで、くまの子が驚いていることを確認する。 (1) くまのとうさんは、何回「えいっ。」と言ったのか。 (2) くまのとうさんの「えいっ。」で起きたことは 考えよう 2. 登場人物の様子を想像する。 (1) くまのとうさんが言った最初の「えいっ。」と最後の「えいっ。」で違っていることはあるか確認する。 (2) くまの子は、電車に乗って黙っていた時、どんなことを考えていたと思うか。 場面ごとに順番に、くまのとうさんの行動とくまの子の気持ちをノートに整理する。 深めよう 3. くまのとうさんが「なるほど。」と言ったのはなぜだと思うか、友達と話し合う。 広げよう 4. このお話のおもしろいところを紹介し合う。 ○単元の学習を振り返る。	○単元とびらの題名、文字、絵を見て、お話を想像させる。 ○簡単な感想の交流やおもしろかったところの交流をして、くまの子になって考えてみることへの興味・関心をもたせる。 ○新出漢字の確認と練習をする。 ○(1)と(2)は別々に学習するのではなく、まとめて学習し、表にまとめるとよい。 ○話の順序を、挿絵を手がかりにしておさえる。 ○とうさんの行動と、くまの子の気持ちとを順番に対照させて表にまとめながら確認する。表にまとめる前に、教科書の該当箇所にサイドラインを引かせてから確認するとよい。 ○ノートにまとめる際に、記述事項を整理する指導も行う。 ○文章に書いてある表現をもとにして、その時、くまのとうさんやくまの子は何を見ていたのか、どんなことを考えていたかを想像させる。 ○「なるほど。」に含まれたとうさんの思いを想像し、友達と考えを共有する。 案① ○どんなところがおもしろいのか、どうしておもしろいのか、ノートに書く。 ○友達とおもしろいと感じたところを紹介し合い、このお話のおもしろさや魅力は、さまざまであることに気づかせる。 または案② ○どの場面が好きなのか、どうしてそう思ったのか、考えをノートにまとめる。 ○好きな場面を選んだ人どうして集まり、その場面のよさを伝え合い、その場面のよさを改めて考える。 ○好きな場面として選んだ場面が異なる人とグループを組み、思ったことを交流する。 ○改めて好きな場面を考え、ワークシートや画用紙にまとめる。このお話の魅力は、さまざまであることに気づかせる。 ○P32・33を見ながら、言葉の使い方や、「登場人物」とは何かを再確認する。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） 【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもっておもしろいところを紹介しようとしている。	とうじょう人物	文／漢字／気持ち／始め／最後／様子／比べる／お話／理由／言葉／「」／（ ）／会話／登場人物／したごと／作者

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5	2	漢字の ひろば ① 画と 書きじゅん	△漢字の画と筆順について理解し、正しく書く。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「土」「日」の字は、それぞれ何画で書くのかを考える。 2. 漢字の画や画数の意味を知り、「山」「女」「糸」「右」「目」「馬」の画数と、それぞれの1画めがどこかを話し合う。 3. これまでに学んだ漢字をもとに、画数についての問題を作り、互いに答え合う。	○画・画数・書き順（筆順）について理解するという学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○「土」「日」を例に、「画」および「画数」の名称とその意味について具体的に理解できるようにする。 ○板書では、一画めから三画めまでが見た目でわかるように色分けするとよい。 ○「山」「女」などをもとに、画数を正しく数えられるようにする。 ○巻末P156からの「1下までに学んだ漢字」の表から出題するとよい。 ○実態に応じて、空書きや指書きをしたり、直接ノートに書いて確かめるなどが考えられる。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に漢字の筆順を理解し、学習の見通しをもって正しい筆順で漢字を書こうとしている。		書き順／画／画数／漢字／筆順／順序
	2 (書く2)	① 一年生で学んだ漢字	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞した	3・4	7. 絵の中の言葉として示されている漢字の読み方を確認し、一年生の時の一年間のできごとを振り返る。 8. 教科書の絵と言葉を参考に短文を作り、句読点の打ち方に気をつけて書く。 ○学習したことを振り返る。	○絵の中にある一年生の時に学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○語と語を適切につなぎ、句読点の打ち方に気をつけて文を書くようにはたらきかける。主語のあと、従属節のあと、並列する語のあとなど必要な箇所、適切に読点を打つことを理解させるようにする。 ○画と書き順について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文を書こうとしている。		漢字／言葉

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
6	2	漢字の ひろば ② なかまの 言葉と 漢字	△意味をもとに仲間に分けた漢字について理解する。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「家族を表す言葉」について考える。 2. 「時を表す言葉」について話し合う。	○「なかまの言葉」について知るという学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○家族内での関係を表す漢字があることを知り、いろいろな家族を表す言葉を理解できるようにする。 ○それぞれの漢字を声に出して読み、正しく読めているかどうかを確認する。 ○「時を表す言葉」の例を他にも探してみる。この場合、「きのう・きょう・あした」などのようにまだ漢字表記を学んでいないものを集めてもよい。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 （【知識及び技能】(1)エ）		漢字／言葉
				2	3. 意味をもとに漢字を仲間に分けることについて理解し、それぞれの漢字を関連づけて覚える。 4. 意味のつながりのある言葉や漢字を身のまわりから探して、ノートに書き、発表し合う。 5. 反対の意味の漢字を確かめ、あてはめる。 ○学習したことを振り返る。	○どんな仲間の言葉なのかについて着目させ、P91『「言葉のなかまさがしゲーム」をしよう』の学習につなげられるようにしておく。 ○意味のつながりを考え、それぞれの漢字を関連させて覚えるようはたらきかける。 ○身のまわりから、意味をもとにした仲間分けの例を集めるようにする。 (例)「目・耳・口・手・足」「はれ・雨・くもり」「日・月・星」「犬・馬」など。 ○反対の意味を表す漢字を書くことを理解させてから、空欄にあてはまる漢字を記入する。 ○身のまわりから、反対の意味を表す漢字の例を集めるようにする。 (例)「入・出」「話・聞」「朝・夕」など。 ○これからの漢字の学習でも、仲間の言葉、反対の意味の言葉などにまとめる習慣がもてるとよいことをおさえる。	【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって漢字の意味のつながりを知ろうとしている。		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
6～7	15 (書く3)	四 くりかえしに 気をつけて、とうじょう人物の様子を 読もう	□繰り返し出てくる言葉に気をつけて、登場人物の様子や、場面の移り変わりに気がつく。						
		きつねの おきやくさま	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆生活科：身近な生き物などを登場人物にした物語を作り、友達に紹介する。 ☆道徳：D 生命の尊さ 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	1 2・3 4～9 10～12 13～15	○学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. P82「たしかめよう」の①②③の順序で、お話が繰り返されていることを確かめる。 考えよう 2. 以下のそれぞれの時のきつねの思いを確認する。 (1) ひよこ、あひる、うさぎに「○○○お兄ちゃん。」と言われた時。 (2) 「いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ。」と言って、飛び出した時。 (3) 恥ずかしそうに笑って死んだ時。 深めよう 3. きつねの性格を考えて、訳とともに文章に書き、それをもとに話し合う。 広げよう 4. この話の好きな場면을発表する。 ○学習を振り返る。	○単元とびらを読み、単元の見通しをもたせる。 ○単元とびらの題名、文字、絵を見て、お話を想像させる。 ○範読または児童の音読により、全体を通読する。 ○繰り返し表現と、おもしろかったところの關係に気づかせる。 ○新出漢字の確認と練習をする。 ○三回の繰り返しがあることを、「ここが大事」を参考にして、以下の観点から確かめる。 ①誰かが誰かと出会う。 ②すみかで、困っている。 ③そろって、きつねの家に行く。 ○挿絵も参考にしながら、きつねの考えたことを想像し、ノートに考えを書いてから交流させる。 ○きつねの思いを想像させる際に、どの叙述からそう考えたかという理由を交えて発表させるようにする。 ○挿絵にふきだしを使つて、きつねの考えたことを書かせたり、ペープサートを利用したりすることも有効なてだてである。 ○きつねの性格を一つに決める必要はない。それよりも、それぞれが文章表現のどこを手がかりにして考えたのかを、はっきりと示すことができるようにさせたい。 ・「このきつねは○○なきつねだと思います。どうしてかというとき……のときに、……をしていたからです。」 ○どの場面が好きなのか、どうしてそう思ったのか、考えをノートにまとめる。 ○好きな場面を選んだ人どうして集まり、その場面のよさを伝え合い、その場面のよさを改めて考える。 ○好きな場面として選んだ場面が異なる人とグループを組み、思ったことを交流する。 ○改めて好きな場面を考え、ワークシートや画用紙にまとめる。このお話の魅力は、さまざまであることにも気づかせる。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） 【態度】進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って好きな場면을発表しようとしている。	くりかえしの ある お話を 読む	文／漢字／せりふ／言葉／お話／順序／場面／訳／発表／様子／繰り返し／登場人物／移り変わり／…

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
7	5	いなばの しろうさぎ	△古くから伝わっている話を，興味をもって聞き，場面の様子を想像する。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして，我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒◎知技(3)ア □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆生活科：地域に伝わる昔話や神話・伝承などを調べ，興味をもつ。 ☆道徳：C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 我が国や郷土の文化と生活に親しみ，愛着をもつこと。	1 2・3 4・5	○学習の見通しをもつ。 1．絵を見て，どんなお話なのか，ストーリーを予想する。 2．絵を見ながら，教師の音読を聞いて，場面の絵をもとにお話確かめる。 3．昔話や神話・伝承の書かれた本を探して読む。 ○学習を振り返る。	○ P86・87の挿絵を手がかりにしながら，どんなお話なのかを予想させる。人物の服装から，この話のおおよその時代を考えたり，うさぎとわに（わにぎめ）が登場することなどを話し合わせる。 ○教師の範読を聞く。その際，教科書の文章を目で追わせる。P86・87の挿絵を使って，話の順序をおさえさせる。 ○おもしろかったところを発表させる。 ○ほかの日本の神さまの本や絵本を読む。 ※地域の神社などの祭神について調べて知らせ，それにまつわる神話等に興味をもたせると生活に広がる。	◎【知識・技能】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして，我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア） 【態度】進んで昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き，今までの学習を生かして昔話や神話・伝承の書かれた本を探して読もうとしている。		文／お話
7	4 (書く4)	「かんさつ発見カード」を書く	■観察して同じところや違うところを見つけ，「かんさつ発見カード」を書く。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆生活科：観察カードを書く活動などに生かすことができる。	1 2 3 4	○学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1．生活科の学習で継続して観察している動植物などから書く対象を決める。 2．新しく観察して気づいたことをメモに書き出す。 組み立てよう・くらべよう（重点） 3．メモを組み立て表の上に並べてみる。 4．3のメモとこれまでに書いた観察記録を比べ，同じところと違うところに目を向ける。 書こう・読み返そう 5．比べて気づいた点を「発見」として「かんさつ発見カード」を書く。 伝え合おう 6．お互いに読み合う。 ○ 学習を振り返る。	○この学習での「発見」の意味をおさえておく。「発見」…今までと違うことや同じことを見つけて，新しく気づいたこと。 ○組み立て表に仮置きして，今までの観察記録と比べてみる。 ・成長の変化は違う点，色は同じ点である。変化の中の共通点を見つけたことが「発見」である。情報を共通点・相違点をもとに比べるという経験をさせる。 ○「はじめ」「中」「おわり」という構成に出合う第一教材である。意識させたい。 ○実際に書くときは，「発見」のとらえを厳密にするのではなく，情報を共通点・相違点でみようと考えているかを重視したい。 ○「発見」について着目して，読み合う。 ○学習のめあてにそって振り返る。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【知識・技能】共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Bイ） 【態度】粘り強く事柄の順序に沿って簡単な構成を考え，学習の見通しをもって「かんさつ発見カード」を書こうとしている。		メモ／文章／組み立て／組み立て表／始め／中／終わり／説明

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
7	2	「言葉のなかまさがしゲーム」をしよう	△言葉が体系的をもって存在していることに気づき、上位語・下位語の概念に基づいて、言葉を探したりまとめたりする。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア	1	○言葉が仲間ごとにまとめられるということを知り、学習活動に対する見通しをもつ。 1. 「言葉のなかまさがしゲーム」を行うための準備をする。	○教材冒頭の会話文を読み、みんなで「言葉のなかまさがしゲーム」の問題を作って出し合うという活動を行ってみたいという意欲をもたせる。 ○P91の下段を読み、「だいこん・にんじん・じゃがいも」は「やさい」という仲間（上位概念）でまとめ言うことができ、「りんご」は「くだもの」の仲間に含まれる下位概念であることを理解させる。 ○P92の上段を読み、まずはクラス全体で仲間ごとにどのような言葉があるのか集めてみる。 ○グループに分かれ、教科書に示されているもの以外の「なかま」を設定し、それに合わせて言葉を集めてみる。 ○ある程度言葉を集めたら、それが設定した「なかま」に含まれるかどうかを各グループで確かめさせる。 ○言葉をグループで集める活動の中で、一つの上位概念も下位概念も、更にその上位概念・下位概念にあたる場合があることにも気づかせたい。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【態度】積極的に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付こうとし、学習の見通しをもって言葉を分類しようとしている。		漢字
9	5 (話す聞く5)	話したいな、聞きたいな、夏休みのこと	◇夏休みの思い出を、順序を考えて話したり、友達の話を聞いて感想を述べ合ったりする。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。⇒◎思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア	1	○夏休みのできごとを順序を考えて話すという学習の見通しをもつ。 (1) 久しぶりに会った友達と夏休みのことを二人で組みになり交流する。 (2) 友達の話が聞きたいという思いを高め、紹介し合う活動を見通す。 組み立てよう（重点） 1. 三人で組みになり、話す練習をする。 (1) 話す順番を考えてメモを書く。 (2) 話す練習をする。聞き手は質問や感想を伝える。 2・3	○この教材では、夏休み後の学校生活も楽しく始められそうだという雰囲気を何よりも大切にしたい。 ○夏休みの絵日記で書いた話題や自由研究についての話は、話しやすく、聞くほうも絵や実物を見ながら聞くことができ興味をもちやすいので、大いに活用させたい。 ○「どこに行った」「誰とどうした」だけで終わることがないように、(いつ・どこで・誰と・何を・なぜ・どのように)……した。ということを視点にさせる。 ○1学期の学習「メモをもとに文章を書こう」を生かして、「はじめ」「中」「おわり」が書けるワークシートを用意し、必要な児童には使わせる。 ○よくわからないことは質問をしたり、感想を伝えたりしながら聞くようにする。 ○学級の実態に合わせ、発表の場は全体やグループにするなど工夫する。 ○聞き手は質問や感想を考えながら聞き、発表するようにする。時間等を考慮して質問者の人数や、あらかじめ感想を言う担当を決めるなど工夫する。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ） 【態度】進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして夏休みのできごとを紹介しようとしている。		始め／順序／したこと／漢字／中／終わり
			4・5	話そう・聞こう 2. クラスのみんなに話す。 (1) 紹介し合う活動を行う。 (2) 話せたこと、聞いたことを振り返り、今後の学習も友達とともに充実させていこうという意欲を喚起する。 ○学習を振り返る。					

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9	2	漢字のひろば ③ 二つの漢字でできている言葉	△二つの漢字でできた言葉の構成を確認し、二つの漢字のつながり方を考える。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「小石」「大木」「白線」という言葉の意味を考える。 2. 「子牛」の例をもとに「親鳥」「海水」「人名」という言葉の読み方と意味を考え、二つの漢字のつながり方を話し合う。 3. 「青空・夜空・夏空」, 「朝市・朝日・朝会」などの言葉の意味について話し合う。 4. 「糸糸」を例に、二つの漢字をつないで言葉を作り発表し合う。 5. 「同じ点数」は, 「同点」という二つの漢字でできた言葉になることを理解する。 6. 二つの漢字を組み合わせて、いろいろな言葉を作り、発表し合う。	○二つの漢字のつながり方と言葉の意味を考えると、いう学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○二つの漢字が互いにつながりをもって結びついていることに意識が向けられるようにする。 ○提示する複合語や熟語を読み下すことで、意味を考えられるようにする。 ○「どのような→□」（「小石」「大木」「白線」など）, 「何の→□」（「子牛」「親鳥」「海水」「人名」など）のように、語相互の関係に着目できるようにする。 ○これらの言葉を使って短文を作り、発表し合うようにする。 ○「□→空」「朝→□」と読み下し、二つの漢字の意味関係を考えさせる。 ○同じ「空」でも, 「青空ー青い空（晴れ上がって青々とした空）」「夜空ー夜の空（夜の暗い空）」「夏空ー夏の空（夏の晴れたまぶしい空）」とその違いが比べられるとよい。 ○「朝の□」では共通しているが, 「朝市ー朝の市（朝開く魚・野菜などの市）」「朝日ー朝の日（朝, 東から昇る太陽）」「朝会ー朝の会（朝, 一日の始まりにみんなが集まって行う会）」などと具体的に考えられるとよい。 ○つないで作った言葉の意味を考え、どんなときにどのように使うかも発表し合えるとよい。 ○二つの漢字でできた言葉を考え、理解できる語句の量や範囲を広げるようにする。 ○二つの漢字を組み合わせて言葉を作り、それをもとに短文を作り、発表し合い、話し合い、意見を出し合うことができるようにしたい。 ○二つの漢字を線でつないで言葉を作る活動の要領が理解できたら、同様の問題作りに取り組みさせてもよい。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（【知識及び技能】(1)エ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって二つの漢字でできている言葉を読んだり書いたりしようとしている。		二つの漢字でできている言葉／言葉／漢字
	2 (書く2)	漢字のひろば ③ 一年生で学んだ漢字 ②	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動（見聞書き）の活用	3・4	7. 絵の中の言葉の読み方を確認する。 8. 教科書の絵と言葉を参考に、広場の様子から想像できる短文を作る。 9. 主語と述語のつながりに気をつけて、絵の中の言葉を使って2文以上が続くように書き、発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	○絵に描かれたことと、言葉からわかる広場の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○描かれている人物と行為、場の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ○まず、広場で、誰が何をしているかを「……が」「……は」で始まる文を書く。 ○語と語の続き方を考えて、主語と述語が整ったまとまりのある文となるようにする。 ○文と文の続き方に注意しながら、続きの文を書く。 （例）女の人が三びきの犬をさんぼさせています。また、ベンチのところで、おじさんが休んでいます。 ○二つの漢字でできている言葉について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（【知識及び技能】(1)カ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（【思考力、判断力、表現力等】Bウ） 【態度】積極的に文の中における主語と述語の関係に気付こうとし、学習の見通しをもって文や文章を書こうとしている。		漢字／言葉／様子

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語	
9	12 (書く3)	五 したことや言ったことから、登場人物の考えを読む	□登場人物のしたことを思い浮かべながら読み、登場人物に手紙を書く。							
		わにのおじいさんのたからもの	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：D感動、畏敬の念 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。	1	○単元の見通しをもつ。	○単元とびらを読み、単元の見通しをもたせる。 ○単元とびらの題名、文字、絵を見て、お話を想像させる。 ○範読あるいは児童による音読によって、通読する。 ○新出漢字や難語句を確認する。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア）	登場人物の考えをそうぞうする	文／漢字／言葉／登場人物／発表／始め／終わり／場面／お話／手紙／理由／言葉づかい／したこと／訳	
				2～5	確かめよう 1. どんなお話を確認する。 (1) 登場人物を確認する。 (2) 始めと終わりの場面を比べて、お話の中でどんなできごとがあったのかを確かめる。主なできごと（おにの子とわにのおじいさんの行動）を確認する。	○登場人物、主なできごと（おにの子の行動）に線を引きながら読み、順にノートにまとめる。	【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）			
				6～8	考えよう 2. 登場人物の気持ちを想像する。 (1) わにのおじいさんは、どうしておにの子に宝物の場所を教えたのか。 (2) おにの子、わにのおじいさんの、それぞれにとっての「たからもの」は何か。	○「ここが大事」に示された例を取り上げて、どの表現からどのような「登場人物の考え」が想像できるかを考えさせるとよい。その際、簡単な動作化や、ふきだしの書き込みなどをとおして、人物の様子を想像させることも考えられる。 ○わにのおじいさんがおにの子の行動や言葉に心を打たれて宝の場所を教えていることをおさえる。宝の場所を教えたときの気持ちを想像する根拠とさせるとよい。 ○宝物までの旅の様子については、詳細に書かれている。	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ）			
				9	深めよう 3. おにの子は、どのような人物だと思うか。	○宝物までの旅の様子については、詳細に書かれている。	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ）	【態度】進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って登場人物に手紙を書こうとしている。		
				10・11	ひろげよう 4. お話のおもしろいと思ったところや、素敵だなと思ったところを発表する。	○お話のおもしろいと思ったところや、素敵だなと思ったところに線を引き、なぜそう思ったのか理由も加えてノートにまとめ、発表する。 ○作品の魅力はさまざまであることに気づかせる。 ・わにのおじいさんが、自分のたからものをあげてもよいと思える相手にであえたことが素敵。 ・自然と優しい行動ができるおにの子が素敵。 ・大変な道を進みながらも、おじいさんのたからものを探しに行くおにの子のたくましさがいいと思う。 ・たからものの箱に気づかず、「せかい中でいちばんすてきなタヤけ」がたからものだと感じられるおにの子がいいと思う。 ・おじいさんは、素敵なたヤけが見られることを知っていて、ここにたからばこをおいたのではないかと思いますと素敵。	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ）			
				12	5. 話し合ったことをもとに、おにの子か、わにのおじいさんに手紙を書く。	○読者から登場人物への手紙でも、登場人物になりきって相手に手紙を書かせる設定でもよい。 ○文章を交流して読み合う。その際に、友達の文章のよいところを口頭で告げるような活動を入れるとよい。	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ）			
					○学習を振り返る。	○P114の「言葉」の設問は、学習活動の中で適宜取り扱う。				

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9	2	はんたいのいみの言葉、に たいみの言葉	△対義語や類義語があることを知り、身近な言葉から対義語や類義語を集める。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア	1	○言葉には、反対の意味をもつものや、似た意味をもつものがあることを知り、学習活動に対する見通しを持つ。 1. 「はんたいのいみの言葉」にはどのようなものがあるかを考え、組みになるカードを作る。	○P116・117の上段にある会話文を読み、反対の意味の言葉と似た意味の言葉に興味をもち、自分からそれらを探してみたいという意欲をもたせる。 ○P116の下段にある設問をクラス全体で考えたのち、板書・ワークシート等によって、ほかにどのような言葉が反対の意味をもつのかについて理解を深め、各自で反対の意味をもつ言葉を探させる。 ○うまく言葉を見つけない児童に対しては、教師の側から言葉の一つ示し、その反対語を考えさせるようにする。 ○打ち消しの言葉を反対語としないように気をつけさせたい。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【態度】積極的に言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付こうとし、学習の見通しをもって言葉を分類しようとしている。		言葉／カード／漢字
				2	2. 作ったカードを友達どうしで確かめ合う。 3. 「にたいみの言葉」にはどのようなものがあるのかについて考える。 4. 「にたいみの言葉」を分類したり、整理したりして、気づいたことを話し合う。 ○学習したことを振り返る。	○作ったカードが反対の意味になっているかどうかを迷うものについては、全体で共有し確認を行う。 ○確認がすんだカードを友達どうしで一つにまとめ、マッチングゲーム（バラバラに並べて反対語のペアを見つけたゲーム）をすることにより、知識の定着を図ってもよい。 ○P117下段の一つめの設問をクラス全体で考えたのち、板書・ワークシート等によって、ほかにどのような言葉が似た意味をもつ言葉になるのかについての理解を深めさせる。 ○教科書の既習ページやワークシートを活用するなどして、それらの中で用いられている言葉と似た意味の言葉を各自で探させる。 ○P117下段の二つめの設問や自分で探した似た意味の言葉を分類・整理させ、気づいたことを発表させる。 ○教科書巻末にある『言葉の 木』（P144）を参照しながら、反対の意味の言葉や似た意味の言葉のもつ特徴についてまとめる。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9～10	11 (書く11)	六 まとまりを考えて書く	■「はじめ」「中」「おわり」のまとまりを考えて、町探検報告文を書く。						
		町の「すてき」をつたえます	△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒◎思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆生活科：生活科見学の報告文を書くときに生かすことができる。	1 2～4 5～7 8～10 11	○「学習のすすめ方」を読み、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 探検してわかったことを、メモに書く。 (1) 探検したい場所を決めて探検し、探検したことを「町たんけんカード」に書く。 (2) 「町たんけんカード」の中から、「見つけたこと」「聞いたこと」「思ったこと」などを抜き出してメモに書く。 (3) メモに書いたことについてペアで読み合い、話し合う。 組み立てよう（重点） 2. 「はじめ・中・おわり」に何を書くか考える。 書こう・読み返そう（重点） 3・4. 文章を書き、読み返す。 伝え合おう 5. 書いた文章を読み合い、よいところを伝え合う。 ○学習を振り返る。	○生活科の町たんけんの学習と関連させるなど工夫したい。 ○メモは短い言葉で書くこと、観点別にマークを入れることをなどを確認する。 ○友達と話し合うなかで更に書きたすといふことなどをメモに書く。 ○書いたメモを「はじめ」「中」「おわり」を意識して、三つのまとまりに分け、構成を考える。 ○順序にしたがって書かせるようにする。この学習では時間的順序や場所的順序を意識させ、選ばせるようにする。 ○紙面の関係で「中」が2段になっているが、実態に合わせて工夫するとよい。 ○P122の「大事な言い方」を使うと順序がわかりやすくなることをおさえ、使えるようにさせる。同様に伝聞の文末についてもおさえ、使うようにさせる。 ○順序がわかりやすく書いてあるかに着目して読み合い、よさを伝える。 ○めあてにそって学習を振り返る。	【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ） 【態度】積極的に事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、今までの学習を生かして報告する文	まとまりのある文章を書く	伝える／メモ／漢字／司書／理由／始め／中／終わり／文章／読み返す／順序／点／丸／小さい「や」「ゆ」「よ」や「っ」

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
10	2（書く 1）	七　しゃしんをくらべて、 考えよう	□ 1 枚めの写真から視点を定めて、2 枚めの写真になった際、何かが起きたことを想像する。						
		この間に何があった？	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)ア □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒◎思判表C(1)オ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ □学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。⇒思判表C(2)ウ	1・2	○学習の見通しをもつ。 1. 1 枚めの写真と 2 枚めの写真を比較して、間に何があったのかを想像し、表現する。 (1) 1枚目と2枚目の写真の違いを見つける。 (2) 見つけた違いをもとにして、間にどのようなことが起きていたかを想像する。 (3) 想像したことを書いたり、話したりして表現する。 (4) 友達と自分の想像の同じところ、違うところに気がつく。 ○学習を振り返る。	○違いを見つける際、大切なのは、視点を定めることである。1 枚めと 2 枚めを比べて、「おもちゃがお風呂から出ている」「水の量が減っている」の 2 点をおさえる。おさえたことをもとにして、なぜおもちゃがお風呂から出たのだろう」「なぜ水の量が減ったのだろう」に焦点を絞って、想像したことを書いたり話したりさせるとよいだろう。 ○想像したことを表現する際には、「まず」「次に」「そして」などの、順序を表す言葉を使うことをおさえる。 ○どの考えにも必ず理由があることと、それぞれの理由に違いが見られることにふれる。	◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） 【態度】積極的に共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解し、学習課題	比べる／言葉	